

摺型友禅 「多ち花」

創業以来作り重ねてきた弊社オリジナルの型です。桃山~江戸時代の小袖や能装束からアジア・ヨーロッパに伝わる更紗文様など、様々な文様からインスピレーションを得て弊社なりに図案化したものです。手描き友禅とは一線を画す摺型友禅の特徴を活かした、大胆ながら繊細さも兼ね備えた表現に注力しています。

摺型友禅とは？

型紙を用いて友禅染を施す染色技法です。色毎に型紙がわかれており、柄の表現にもよりますが、おおよそ数枚から数十枚で一つの柄が構成されています。きもの生地(約13.5m)の半分ほど(約7m)の長さの分厚い木の板(厚さ約3cm)に生地を貼って固定し、その上から型紙(約90cm)を合わせて刷毛で染料を染め付けます。

・多ち花の摺型友禅の特徴

ひとつの色につき多段階の濃淡を表現するために、型紙を彫り分けています。

同じ色を擦り重ねることで奥行きができ、より深みのある表現を可能にします。例えば、朱色ひとつを表現するのにも、4枚の型紙に彫り分けたりしています。一度しか摺らないところは淡く、二度三度と摺り重ねるに従って濃くなります。

それを色が異なる毎となると、型紙の数も増えていきます。赤・紫・緑・黄それぞれが4枚の型紙に分かれていれば、それだけで16枚の型紙が必要になってきます。型紙が増えるとコストや手間も増えますが、敢えてそれを遂行することで多ち花らしいと感じる摺型友禅のものづくりができるのです。

